(様式２)

乳汁検査における新たな検査法の試みと課題

：伊那家保　藤本洋平

一般乳汁細菌検査（細菌培養法）は、１～２日の培養が必要であり、また培地上で菌が発育しない乳房炎（非発育性乳房炎）では、原因の特定は困難。迅速かつ非発育性乳房炎でも菌体の検出を可能にする検査法（迅速検出法）を広島大学鈴木教授が考案。この迅速検出法を細菌培養法と同時に実施することで、迅速検出法を活用するにあたっての課題がみられた。試験検査で依頼のあった乳汁について、細菌培養法と迅速検出法とで検査を実施。細菌培養法は定法のとおり。迅速検出法は、乳汁 10 mL を 3000 rpm、５分間遠心、上清を除去。沈渣を生理食塩水１ mL で懸濁、うち 10 μL をスライドガラスに広げ、グラム染色し鏡検。結果、細菌培養法で分離困難な検体で菌体を検出したが、全体として細菌培養法よりも菌体の検出率は低下。迅速検出法は、検査の性質を理解し、細菌培養法の弱点である迅速性等を補えるものと考察。今後は臨床獣医師と緊密に連携し、本法を有効に活用していきたい。